



校長室だより

第 1 8 号

令和3年7月13日(火)

大崎市立沼部小学校

校長 吉田 浩之

養殖マダイに関するオンライン授業

大崎市は、伊達家とのつながりから愛媛県宇和島市と姉妹都市になっています。12日(月)の4校時に6年生がオンラインで、宇和島水産高等学校の授業を受けました。国の補助事業を活用し、宇和島市から姉妹都市の小中学校へ給食食材として養殖マダイの提供を受けています。給食食材として真鯛を実際に食してもらうことに加え、宇和島市及び各姉妹都市の小中学校と宇和島水産高等学校をオンラインでつなぎ、高校生によるマダイ養殖や魚食普及について授業を行うという計画のもとに進められたものです。

岡原 宇和島市長から、姉妹都市の北海道当別町、大崎市、仙台市、長野県千曲市の小学校に向けて挨拶がありました。この4市町は伊達家とのつながりから、姉妹都市になっているそうです。宇和島市は、みかん、魚、真珠の生産が多いこと、その中でもマダイの生産量が日本一であることなどのお話をいただきました。そして、宇和島に来て魚を食べてほしいとおっしゃっていました。

次に宇和島水産高等学校の紹介と、マダイの養殖について高校生が小学生に教えてくれました。宇和島水産高校は、水産と海洋について学べる愛媛県で唯一の学校だそうです。海洋技術科、水産食品科、そして今回マダイについて教えてくれた水産増殖科があるそうです。宇和島市は、リアス式海岸で、水深が深く、波が静か、黒潮によりプランクトンが豊富で養殖に適した環境だそうです。エビ、カニに含まれているアスタキサンチンという物質をマダイが食べることで、マダイが赤くなるということは私も初めて知りました。餌にはエビやカニのミンチも混ぜているそうです。

つながっている各学校から質問タイムがありました。本校からは高橋栄翔さん、鈴木はるさん、加藤姫菜さんの3人が質問しました。

「餌にハーブを入れようと思ったのはなぜですか?」「愛媛の名産品『ポン・ジュース』を入れてみようというのがきっかけです。」「養殖する上で常に心掛けていることは何ですか?」「品質管理をしっかりとすることです。」「1匹のマダイはどれくらい卵を産むのですか?」「だいたい100万個くらいと言われています。」

最後に宇和島市の小学生から、「宇和島のマダイの生産は日本一」「宇和島のマダイは愛育フィッシュです。」「宇和島のマダイは美味しい。」とのメッセージがありました。

給食には、宇和島産マダイの南蛮漬けが出ました。身が厚くプリップリでしたよ。おいしくいただきました。いろいろと勉強になったオンライン授業でした。私は、コロナが落ち着いたら、宇和島に行ってみたいと思いました。

なお、この様子は、大崎ケーブルテレビで7月17日から23日まで「ウィークリーおおさき」のコーナーで紹介される予定です。

